

## 卒業論文本体の書き方

## INSTRUCTIONS FOR TYPING THE GRADUATION THESIS

工シス太郎

Taro KOUSHISU

(指導教員筑波花子)

**Abstract** – Here you must write the abstract of your thesis. If you write the text in Japanese, you must write the abstract in English. If the text is written in English, the abstract must be written in Japanese. Abstract is not Introduction. In abstract, please briefly write what is studied, done, and concluded. It is not necessary to write why your study is started, or how your study is important.

Typical length of the abstract is about 150 – 300 words, but not limited.

## 1 まえがき

卒業論文本体はまとめて製本し学類で保存することになっておりますが、人によってあまり書き方が異なると全体としてまとまりのつかない感じになりますので、体裁を大体そろえてもらいたいと考えています。そのため、このような卒業論文本体の形式の例を作りました。大体この例と同じような形式で本体を書いて下さい。

さて、この、最初の節の題は「まえがき」としましたが、これは電子情報通信学会の例にならったものです。「まえがき」以外には「はじめに」とか「序論」とか書くことが多いようです。

「まえがき」では、普通、まず、自分の研究の目的、社会的な意義を説明します。次に、同じ目的の研究には自分の研究方法以外には過去にどのような研究がなされてきたか、を紹介します。また現在他に類似の研究があればそれが誰によってどのように研究されているか、というようなことも紹介します。そして、自分の研究はそれらの研究と比較してどういう点が良いのかを書きます。

ただし、研究の内容や分野によっては書き方が異なる場合もあると思いますので、詳しいことは

指導教員に聞いて下さい。

## 2 本体の形式

工学システム学類の卒業論文は、本体および参考資料からなります。本体とは卒業研究をまとめたもので、卒業研究の題目、著者、概要、意義、背景、内容、結論等をもれなく無駄なく記載します。本体の形式は学会誌等の論文に準拠した形式とし、日本語または英語で、A4ダブルカラム両面プリントとし、長さは標準8ページ（4枚）最長20ページ（10枚）とします。本体の分量を制限しているのは、学類生全員の分を年度毎にまとめて製本し工学システム学類に保存するためです。

なお、本体に書ききれない研究の詳細や記録すべきデータ・図面等は必要に応じて参考資料として別にまとめてください。参考資料はA4判ファイルに綴じ、表紙に題目、氏名、学籍番号、指導教員名を記入します。また、参考資料の最初には本体の写しをつけます。その他の参考資料の形式、および内容は自由です。

今年度は、本体、参考資料ともに、Manabaから電子媒体での提出になりますので、各自の指導教員の指示に従って書いてください。

本体の形式を順に説明します。

- (1) **ページ番号:**製本する時には通しのページ番号をつけませんので、各自で奇数ページの右上と偶数ページの左上に、学籍番号と大文字のローマ字の自分の名字とページ番号を例にならって付けておいて下さい。この例の20xxxxxxxの代わりに自分の学籍番号を、KOSHISUの代わりに大文字のローマ字で自分の名字を例にならって書いて下さい。ページ番号は自動的に付きます。
- (2) **題目:**題目は最初に大きく書いて下さい。2行目に英語タイトルを書いて下さい。
- (3) **著者名:**著者名は題目より小さく本文と同じか大きい字で書いて下さい。著者名のローマ字表記も例にならって書いて下さい。
- (4) **指導教員名:**例にならって、指導教員名を「(指導教員)」と「)」で括って書いて下さい。
- (5) **概要(Abstract):**卒業論文の概要を、本文が日本語の時は英語で、本文が英語の時は日本語で書いて下さい。なお、概要は論文全体の要約ですから、何を研究したのか、何が分ったのか、どのような結論が得られたのかを書いてください。どうしてこの研究が必要なのか、などは長々と書かなくてもよいです。
- (6) **本文:**「まえがき」の節といくつかの節と「あとがき」の節が続き、最後に「参考文献」が入ります。謝辞は「あとがき」の中に入れたり、独立した節にすることもありますが、これらは、ダブルカラム形式で書いて下さい。ただし、大きな表や図はページを横切って入れてもかまいません。
- (7) **図表:**図表には番号と説明をつけてください。図の番号と説明はその図の下に、表の番号と説明はその表の上にかくことが多いようです。表1は表の例です。

表1 工学システム学類学生数

| 年度     | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| 平成28年度 | 156 | 132 | 149 | 144 |
| 平成29年度 | 161 | 132 | 145 | 145 |
| 平成30年度 | 163 | 134 | 142 | 140 |
| 令和元年度  | 154 | 143 | 140 | 134 |



図1 図の例

### 3 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>Xによる本体の書き方

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>Xはあくまでも選択肢の一つです。その他のワープロソフトを使ってもかまいません。しかし、L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>Xには色々便利な機能があり、慣れると使いやすいものです。そこで、L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>Xを使ってみようという方のために、この例のソースファイルとスタイルファイルは、manabaの「工学システム学類卒業研究」コースにおいておきます。この `sample.tex` というファイルを適当に改造して、卒業論文の本体、または、一部を作成することが出来るでしょう。ただし、これらのファイルには不十分な点もあります。もしL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>Xに詳しい人がおられましたら、改良して下さい。

作成したファイルを整形する時には、この `sample.tex` ファイルと同じディレクトリに置かれた `esys-thesis.sty` を必要とします。

図を入れたい場合には、Adobe Illustrator 等のドローソフトなどで書いて PDF形式でファイルに格納し、そのファイル名を L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>Xの文中で指定します。図の番号などは本文中で引用して使いますが、その場合は整形を2回行ってください。図1は図の例です。

図表や参考文献の番号などは本文中で引用して使いますが、その場合はまず図表のキャプションや参考文献を作成してから、そのクロスリファレンス

スを本文に挿入してください。例としてLaTeXの参考書[1][2]を挙げるとこのようになります。

#### 参考文献

- [1] 坂東慶太, 「インストールいらずのLATEX入門——Overleafで手軽に文書作成」, 東京図書, 2019.
- [2] 奥村晴彦, 黒木裕介, 「[改訂第7版] LaTeX2e美文書作成入門」, 技術評論社, 2017.